

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4070702107, 株式会社エルダーサービス, グループホーム折尾東, 福岡県北九州市八幡西区丸尾町6-22.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日. Values include 株式会社アーバン・マトリックス 福祉評価センター, 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号, 令和1年12月6日, 令和2年3月14日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が「自分らしく」日々を楽しく過ごして頂ける様、常に入居者や御家族の思いを大切に笑顔で支援を行っている。近隣の保育園などの交流もあり触れ合いを楽しんでいる。併設のデイサービスがあり毎年合同で夏祭り等を行い入居者やご家族に好評となっている。法人内にはデイサービスセンター・ヘルパーセンター・在宅介護サービスセンター等があり地域の方々や御家族の相談にも大いに活用されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性の高い住宅地の中にあり、開設して17年目を迎える歴史を持つ事業所である。ゆとりある広さの敷地内には、デイサービスセンターが併設されており、日常的な交流や連携を図っている。自治会の解散や隣接するコンビニエンスストアの廃業等、地域交流の新たな課題は発生しているが、保育園や様々なボランティアの方々との交流を重ね、新たな交流拡大についても模索しているところである。法人内各事業所の連携を活かし、事例やノウハウの共有等を通じて、サービスの質の確保に取り組む意識の高さがうかがえる。全ての介護職員は介護福祉士の資格を持ち、定着率も高く、安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 describe various service outcomes and staff actions.

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につきやすい場所に掲示しており毎日のミーティングや定例会でも唱和し日々の業務の中でケアやサービスの支援に努め実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念や運営方針を掲げている。「自分らしさ」の実現や「気づきと思いやり」の精神で支援していくことをキーワードとして、ミーティング等にて共有し、実践へと結び付けるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し組長の役割も果たしていたが町内会が解散したため交流が難しくなった。	隣接するデイサービス事業所とともに、保育園やボランティアの方々(ハーモニカ・日本舞踊・シャンソン等)との交流を継続している。これまでは自治会役員を務めていた経緯もあったが、自治会自体が解散し、隣接するコンビニエンスストアも廃業となっており、新たな地域交流について模索しているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで民生委員からの相談などのときアドバイスを行っている。見学者等の相談に対しても出来ることがあれば対応するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。会議では外部評価の結果を報告する。事業所内での取り組みや活動状況の報告、家族会などの報告も行い意見や要望をお聞きし得た情報を検討し業務に活かせるよう努めている。	複数の入居者及び家族の方々、民生委員、地域包括支援センター担当者の出席を得て、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の状況報告や地域包括支援センターからの情報提供等を基に意見交換を行い、入居者より意見が出されることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北九州市の担当とは連絡を取ったり情報交換を行っている。運営推進会議にも参加して頂き意見交換を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ており、事業所の実状を理解して頂き、開かれた事業運営に努めている。また、空室状況の共有や不明な点の問い合わせ等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したりし身体拘束をしないよう職員で話し合い内部研修をしている。日中は玄関は施錠しなくて自由に出入りできるようにしている。	3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し、運営推進会議の中で報告を行っている。また、研修実施や「身体拘束実態調査票」をもとに、毎月現状をチェックする等、身体拘束をしないケアの実践に向けて、理解と認識を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加や、内部研修を行い虐待をしないよう話し合い防止に努めている。日ごろから見逃すことがないように注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所にて成年後見人を利用されている入居者がおり支援できる体制を整えている。外部研修の参加や内部研修を行っている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、定例会の中で、成年後見制度や日常生活自立支援事業、任意後見制度について学ぶ機会を確保している。また、資料を整備し、必要時には情報提供が行える体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は必ず文章と口頭にて説明して頂ける様に行っている。また、質問しやすい雰囲気にも努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置しており直接言いにくいことがあれば苦情箱へ入れて頂くように説明している。運営推進会議にご家族の参加もして頂き意見・要望・苦情を話せる機会を設けている。	運営推進会議には、複数の利用者及び家族の方々の出席を得ている。また、以前は法人内のグループホーム全体で開催していた家族会を事業所単独で開催し、食事を共にしている。日常の中でも関係性を重ねながら、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者が職員とのヒヤリングを行い意見を聴く機会を設けている。その都度話し合いを行い運営に反映させている。	日々のミーティングや毎月の定例会、個人面談等を通じて、職員意見の聴取に努めている。また、看取りの支援にあたり、職員個々の意見を聴き取り、方針の共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その状況に応じて勤務の調整を行い柔軟な対応を行っている個人面談を行い皆が向上心を持って働ける環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は年齢・性別等で排除することはない。管理者は定期的にヒヤリングを行い職員の向上心や業務に対するいけんや提案を聞くように努め精神的フォローを心掛けている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。看護師以外、すべての職員が介護福祉士の資格を持つ。子育て世代への配慮や得意分野の發揮等、職員個々の特性に配慮しながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、内部研修を行い人権に対する意識を高めている。また、日々の業務の中でも入居者様の人権に配慮したケアをおこなうように努めている。	権利擁護や高齢者虐待防止、身体拘束の適正化、接遇マナー等の研修を年間計画の中に位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他の事業所との合同研修にも参加し事例検討や外部研修の資料を配布し日々の業務の中で相互に意見をし学べるような職場環境に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内4事業所のグループホームや他事業所と開催している研修会や相互の訪問を通じて情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に伺いお話をし困っている事や不安な事、求めていることなどに対してご本人が入居するまでに出来る限り環境を整えるようにつとめる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談を行いご家族との関わり方やご家族が困っている事、不安な事、要望等を詳しく聞きご本人が安心して日々生活できることをお伝えし、入居後も随時相談を受けつける事をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と話し合い、最も必要としている支援やサービスを考慮したたいおうに努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でともに支えあい普段の何気ない会話を大切にさりげない支援をおこないお互いが「ありがとう」を言える関係が築かれている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来訪時に入居者さまの日々の生活をお伝えし行事の参加、病院受診の付き添い等職員と一緒にいる事により一緒に支えていく関係が築かれている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方との交流・馴染みの場所等の関係が途切れない様にご家族と話し合い支援をしている。	日常的な来訪や運営推進会議、家族会の開催等を通じて、家族との関係性を大切にしている。お墓参りや法事、外食等、家族の協力を得ながら支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味を把握し皆様で楽しめるようなレクリエーションを行い利用者同士が関わり合えるような支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の家族へ管理者より連絡を取り現在の様子を伺ったりご家族からの相談にはニーズに応じた関係機関を紹介したりご本人ご家族が満足したサービスが提供できるように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意思を職員で共有する為ミーティングシートにより情報の共有化を図っている。入居者との会話を大事にし会話の中から本人の思いや意思を聞き取りアセスメントを行いケアやサービスの提供を行っている。	入居時より、家族や関係者にも協力を得ながら、情報収集に努めている。ミーティングシートも活用しながら、日常の気づきの共有に努め、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の会話の中やご家族からの情報により生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりが自分らしく過ごしていけるよう心身の状況を理解し日々の変化など職員間での伝達をし現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族からの話を聞き関係者とカンファレンスを行い介護支援専門員が介護計画を作成している。	毎月、各担当者が計画作成担当者へ情報を集約し、モニタリングを実施している。日々の帳票作成やミーティングシートの活用、カンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に記録し日々の様子や心身の状態のケアの実践などが記載されている。また、気づきや工夫などは申し送りの時に話し合いミーティングシートに落とし職員間での共有の情報に努め介護計画の見直しに活用もする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスを併設しカラオケやマッサージ機を利用することが出来る。合同での行事も楽しむことが出来る。利用者同士の交流やふれあいの機会がある。また、法人内に訪問介護・介護支援センター等があり本人やご家族に応じた支援をしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議、ボランティアの方々によるイベントや近隣の保育園との交流を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望がない方はご本人ご家族の同意を得て協力医に1ヶ月2回の往診または受診を行っている。健康状態に問題が生じた場合は早急に受診を行い対応している。受診結果はご家族へ報告している。	協力医療機関が道路向かいに近接しており、受診や往診、相談等を通じて、適切な医療が受けられるように支援している。他科受診については、家族との連携を図りながら、情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とともに連携を取り入居者の日々の状態を相談し日常の健康管理を支援している。また、看護計画を把握し入居者の状態の変化があった場合はすぐに報告し指示を仰ぐ様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはおお見舞いに伺い入居者様が安心して過ごせるよう支援している。また、病院の看護師、ソーシャルワーカーと連携し状況把握に努める。退院に向けてのカンファレンスには御家族と一緒に参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化してきた場合かかりつけ医、ご家族と話し合い状況を把握し事業所にて出来る事出来ない事を見極め職員全員で支援するように取り組んでいる。	近接する協力医療機関との密な連携を図りながら、初めての看取りを支援した経緯がある。本人、家族の意向や主治医の意見、職員の意見や体制等について話し合いを重ね、方針の共有を図っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について内部研修外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行い昼夜を問わず入居者様が安全に避難出来るよう訓練を行っている。緊急通報装置・スプリンクラーの設置もある。	各種災害対応マニュアルを整備し、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。以前は隣接するコンビニエンスストアとの連携を図っていたが、廃業の為、現在は近在の元消防署関係者の方との連絡体制を確立している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気をつけ人生の先輩である入居者さまに対して常に尊敬の気持ちを持ちプライバシーにも配慮した言葉かけや笑顔で優しく対応するよう心がけている。	法人全体で接遇マナーに力を入れており、言葉かけや対応、支援のあり方について、法人責任者や管理者より指導が行われ、気づいた点を注意しあえる関係性も築かれている。個人の生活習慣やペースを尊重しながら、生活リズムの確立に向けた支援に配慮されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定・自己選択が行えるよう声掛けし自分の意思が表現できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが一人ひとりのペースを大切にその日の状況に合わせ入居者の希望を尊重し日々穏やかに楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回訪問美容が来訪しカットやパーマ等を行っている。日々の生活でも身だしなみにはきを付けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを献立に活かしたり盛り付けなどにも工夫をしている。職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。職員の手作りの食事なども楽しんでいる。	嗜好や残食も確認しながら、家庭的な手作り料理が提供されている。また、口腔ケアにも力を入れており、研修実施や歯科医等との連携を通じて、機能向上に向けた働きかけを行っている。家族会での食事提供やお菓子作りの機会もあり、「食」の楽しみに向けて工夫されている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に一人ひとりの食事摂取量を記入して職員全員が把握している。摂取量が足りない入居者への強化にも務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。また、必要な方は1週間に1回訪問歯科を受けている。医師より助言や指導もある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートに記入し個々のパターンを把握し時間ごとのトイレ誘導等行い気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄状況やパターンの把握、排泄用品の検討等、細やかな視点から、多面的なアプローチが行われており、排泄の自立に向けた支援が効果的に行われている。日中はトイレでの排泄を基本として、日常の中での機能維持・活用にむけた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に1日の水分量等を記入し水分強化や食事等も工夫している。適度な運動も心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3~4の入浴を基本としているが本人が希望すれば柔軟な対応を行っている。	日常的に入浴を準備し、希望や体調、状況等に応じて、週に3~4回の入浴を支援している。ヒートショックにも留意しながら、足元を温めるための工夫等が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息や入眠が出来るよう室温調整や換気などに配慮している。また、適度な運動も心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書をファイルし薬の副作用についても定例会で学んでいる処方の変更したときは運営日誌に記入し症状の変化の確認もおこなう。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中では洗濯たたみ等無理の無いように参加されている入居者の生活歴を活かした支援を行いカラオケ等でも気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブへ出かけている。季節感を感じれるよう工夫した場所選びを行う。本人の馴染みの場所へご家族と出かけることもある。	季節に応じて、近隣の方が育てる花を見に出かけたり、公園で子供たちとの交流を楽しむ機会がある。また、季節の花見や宗像大社参拝、遠賀川のドライブ等を楽しむ機会がある。家族との連携も図り、お墓参り等の支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方がいれば自分で管理して頂きお買い物の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられる時はホームの電話を使用している。使用するときには居室にてプライバシーに配慮している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると開放的なリビング空間があり対面キッチンにて落ち着いた雰囲気になっている。リビングにはマッサージチェアやソファーがあり季節ごとの飾りもあり入居者が心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の方々と取り組む季節の作品創りは、職員のアイデアや工夫が伝わり、完成度も高い。平屋建ての1ユニットの共用空間は生活感があり、ソファーの設置等、くつろぎの居場所も確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファーもありゆっくりと過ごせる場所作りに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し使い慣れた物を使用して頂き好みの物を飾られたりし居心地のいいように工夫している。	プライバシーの確保や夜間の光への配慮等、細やかな工夫が確認できる。全室床暖房が設置されており、家族の思いが込められた絵手紙や水彩画等が飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ出来る事はして頂き自立した生活が送れるように物の配置などに気を配り安全に努めている。		